

國學院大學學術情報リポジトリ

「古器旧物保存方」31種の古器物選定の背景について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-06-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 内川, 隆志 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000476

「古器旧物保存方」31種の 古器物選定の背景について

Background of the selection of 31 types of ancient artifacts for the “Koki Kyuubutu Hozonnkata”

内川 隆志

UCHIKAWA Takashi

はじめに

明治4（1871）年5月23日太政官は、大学からの集古館設立の献言に対してその趣旨を認め、「古器旧物保存方」が布告された。布告には31部門に分類された保護すべきモノが具体的に示されたわが国初の文化財保護制度と評価されている。この31種の内容は、松平定信編纂の『集古十種』の分類に類似していると言われてきた⁽¹⁾が、その具体的な選定の背景について言及した研究は少ない。鈴木廣之は、布告の別紙にあげられた31種の中に建造物などモニュメンタルな性格を有するものが含まれない事から、背後に「収集家たちの姿」を想定し、市井の好古家たちの動向に注目しているのが唯一ではないだろうか⁽²⁾。個人のコレクションは持主の嗜好性や身につけた学問により形成され、それぞれが影響しあって共通の世界観をかたちづくる。つまり「古器旧物保存方」の内容には、当時の蒐集家の世界観が反映されているのではないかと、いう先学の指摘を受けた問いを検証することを目的とした。

1. 「古器旧物保存方」布告の社会的背景

明治元年、神仏分離令（神仏判然令）や大教宣布政策は神道と仏教の分離が目的であり、基本的には仏教排斥を意図したものではなかったが、結果として廃仏毀釈運動が起こった。神仏習合の廃止、神体として仏像の使用禁止、神社からの仏教的要素の払拭などが徹底され、祭神の決定、寺院の廃合、僧侶の神職への転向、仏像・仏具の破壊、仏事の禁止などが見られた。明治4年正月5日付太政官布告で寺社領上知令が布告され、境内を除き寺や神社の領地を国が接収したのである。廃仏毀釈の徹底度に地域により大きな差があるのは主に国学の普及の度合いの差による。明治元年末以降、強力な廃仏毀釈が行われた藩は、隠岐・佐渡・薩摩藩・土佐藩・平戸藩・延岡藩・苗木藩・富山藩・松本藩などであり、特に明治維新を起こした諸藩では民衆の参加も狂信的であり、仏像・仏具などあらゆる仏教美術が破壊された。明治の世まで仏教徒の下におかれた感のある神職達が、政府に迎合する形で暴発した感も否めない。柴田道賢によると廃仏毀釈が徹底された維新の首謀者薩摩藩では、寺院1,616寺が廃され、還俗した僧侶は2,966人にのぼり、そのうちの3分の1は軍属となったため、寺領から没収された財産や人員が軍に回されたと言われる。美濃国苗木藩では、領内の全ての寺院・仏壇・仏像が破壊された。廃仏毀釈によって寺の大小関わりなく仏寺の組織的破壊が行われ、実質的に仏像・仏画・

経巻の焼却・破壊などが建造物、仏像、仏具の多くが失われた。慶応4（1868）年4月1日、比叡山麓坂本の日吉社へ暴徒が押し寄せ、神殿に侵入、仏像、仏具、経典など124点に及ぶ仏教美術を破壊したのが廃仏毀釈の最初の暴挙である⁽³⁾。法隆寺に匹敵する寺領を誇った奈良県内山永久寺（永久2年創建）は、伽藍もろとも完全に廃絶し、所蔵されていた仏教美術は、破却、散逸の憂き目にあって、かろうじて残った美術品は国内外各所に存在している。この全国規模の仏教をターゲットとした暴挙によって寺院に蔵されていた仏教美術や建造物を保護する機運が後の文化遺産の保護思想に直結してゆく。

また、明治4年8月29日、廃藩置県が決定すると社会は大混乱となり、藩主は一斉に帰国、宏壮な屋敷は空き家となって地価は暴落、屋敷にあった美術品を含む道具類は、価値を見出されることなく市中に溢れ出した。公家、諸公、華族に伝来する指定した資産に対し、第三者の所有権・質権・抵当権主張を不可能にした明治19（1886）年の「華族世襲財産法」（明治19年勅令第34号）の発令によって沈静化するまで収拾のつかない状況が続いた。このような状況下において立ち上がったのが大学南校物産局の町田久成である。

2. 集古館設立の（大学）献言と大学南校物産会の開催

町田久成は、明治3年大学大丞として田中芳男と共に大学南校物産局に勤務した。彼らは、廃仏毀釈に代表される文化財危機の時勢にあたって「抑西洋各国ニ於テ集古館ノ設有之候ハ古今時勢ノ沿革ハ勿論往昔ノ制度文物ヲ考証仕候要務ニ有之」と記すように、明治4年4月25日太政官に対し「集古館設立の献言」（大学献言）を発し、西洋各国の集古館すなわちミュージアムの設立をもって古器旧物保護を献言したのである⁽⁴⁾。冒頭には、戊辰戦争以来「天下ノ宝器珍什」の遺失を憂い、欧州賛美の風潮が「厭旧尚新ノ弊風」を生じ、「経歳累世ノ古器旧物」が敗壞されていることを訴えている。そして「抑西洋各国ニ於テ集古館ノ設有之候ハ古今時勢ノ沿革ハ勿論往昔ノ制度文物ヲ考証仕候要務ニ有之」とあるように西洋における集古館の存在意義を明らかにした上で、集古館建設を急務とし、それが直ぐに適わないなら「集古館御建設ノ儀速ニ難彼為行儀モ有之候ハバ姑ク府藩県へ御布告相成」とあるように、府藩県へ古器旧物の保存をはかるように明記している。献言の要点は、1.明治維新以来、宝器珍物などが殲滅に及んでおり誠に遺憾であるため集古館を建設せよ。2.政府が集古館建設不可能のおりには、雑品にいたる物を保護せよ。3.専任者をもって古器物を模写し、記録として集成せよ。ということであり、ここに古器旧物の危機が説かれ、具体的なモノをあきらかにした「古器旧物保存方」の布告につながる内容を含んだ献言を太政官に突き付けたかたちとなっている。

「集古館設立の献言」の翌月、明治4年5月14日から20日にかけて招魂社に近い九段坂上三番薬園の跡で物産会が開催された。この年文部省が発足、湯島聖堂（旧幕府昌平坂学問所）が文部省所轄となり、文部省博物館として改組された。大学南校上申に明記されているように、この物産会開催の最も重要な点は、明治政府の最高学府が主導し、広く国民に博覧会の持つ有用性を謳い、一般の出品を求め「最寄ノ物品ヲ出セシ輩ニハ」褒賞を出すなど物品への注意を喚起したことにある⁽⁵⁾。「商買売買ノ品物若シ贖ヒ度者アラハ売主ト談判勝手次第ナリ」と出品物の売買を認めていることも古物などに金銭的価値が厳然と存在することを知らしめ、ひい

ては散逸、廃棄などを回避させる意図があったことが推測できる。当初計画では、一辺が12間の八角形三階建で中庭を有し、庭には十六弁菊花の紋章を模った花園とし、屋根は瓦葺、総塗屋約1,000坪の展示面積を誇る壮大なものであったが、実際には招魂社境内の兵部省管轄の建物においてのみ行われたのである。東京国立博物館所蔵の『明治辛未物産会目録』によれば、総数2,347件を数える品々と所有者が記載され、展示物は以下のように分類されていた⁽⁶⁾。

[鉱物門]

化石之部 80

土石之部 516

鉱石之部 212

[植物門]

澳大利産草木 26

木之部 盆種 85

草之部 盆種 198

種子果実並木材 葉之部 129

海藻之部 74

[動物門]

活獣之部 2

剥製 22

獣骨並画図之部 24

鳥之部 籠養・剥製 132

魚之部 活魚・剥製 98

介之部 331

虫之部 50

爬虫類之部 24

植虫之部 15

測量究理器械之部 13

内外医科器械之部 22

陶器之部 130

古物之部 83

雑之部 82

[測量究理器械之部] 13点

[内外医科器械之部] 22点

[陶器之部] 130件

そのうち古物之部と雑之部に出陳された古物を列記すると以下の品々があげられる。

[古物之部]

古銅符印同印文卅字 1点

磁硯 1点 / 古竹帙 1点 / 法隆寺古帙 1点

古銭15枚

天竺錫蘭島鉛造観音 1 点 印度鑄造観音 1 点 / 経石 1 点

[雑之部]

七宝 3 点 / 古銅器 3 点

業平画像古図模写 1 点 / 油画額 3 件 / 奈破崙ボナハルテ肖像 1 点

判桑機器 1 点 / 園丁器械 1 点

西洋蠟燭 1 点 / 鶴狐彫物 1 点 / 北海道産木彫器物 1 点 / 象牙製剪採花 1 点 赤 / 鳥ノ塵払 1 点 / 鍍樹ニ玉ヲ嵌セシ煙盆 1 点 模造和田酒盛杯 1 点

ボタン 3 件 / 西洋白檀扇 1 点

西洋尺数枚

ドミノ即西洋奕具 1 点 / 西洋将棋 1 点

出品物のうち官品は全体のわずか 2 割に過ぎず、個人出品者では田中芳男の752件が群を抜いて多く、伊藤圭介の341件、竹本要斎の319件、内田正雄の348件などが大口の出品者となっている⁽⁷⁾。この事は物産会に出品された品々は、物産学を専門とする田中の主たる出品物が鉱物、植物、動物等であるように、個人の研究対象あるいは蒐集対象そのものであるという捉え方もできる。つまり品々に偏りはあるにせよ当時の学問世界や蒐集家の対象としたモノの一部が明らかにされているものといえる。大学南校による集古館設立の献言、大学南校物産会直後に布告された「古器旧物保存方」には、「天下ノ宝器珍什」と「経歳累世ノ古器旧物」の具体的な31種のモノが示されることとなった。

3. 古器旧物保存方と幕末維新期の蒐集家

大学南校物産会直後の明治4年5月23日太政官は「古器旧物保存方」を布告し、古器旧物の価値観を定め31種の名称一覧が添えられ、品名と所蔵者を記載したものを所管官庁を通じて提出することを命じただけで集古館そのものの建設には触れられなかったが、廃仏毀釈などで管理者の曖昧になった宝物を社寺の財産として保全する方策でもあった点は注視すべきであろう。まさにこの太政官布告が国家主導の文化財保護政策の第一歩であった事を意味している。以下に全文を記す。

古器舊物ノ類ハ古今時勢ノ變遷制度風俗ノ沿革ヲ考證シ候爲メ其裨益不少候處自然厭舊競新候流弊ヨリ追々遺失毀壞ニ及ヒ候テハ實ニ可愛惜事ニ候條各地方ニ於テ歷世藏貯致シ居候古器舊物類別紙品目ノ通細大ヲ不論厚ク保全可致事

但品目並ニ所藏人名委詳記載シ其官廳ヨリ可差出事

(別紙)

一 祭器ノ部

神祭ニ用ル楯矛其他諸器物等

一 古玉寶石ノ部

曲玉 管玉 瑠璃 水晶等ノ類

一 石弩雷斧ノ部

石弩 雷斧 霹靂礎 石劔天狗ノ飯匙等

一 古鏡古鈴ノ部

古鏡 古鈴等

一 銅器ノ部

鼎 爵其他諸銅器類

一 古瓦ノ部

名物並名物ナラスト雖古キ品

一 武器ノ部

刀劔 弓矢 旌旗 甲冑 馬具 戈戟 大小 銃砲 彈丸 戰鼓

哮囉等

一 古書畫ノ部

名物 肖像 掛軸 卷軸 手鑑等

一 古書籍並古經文ノ部

温古ノ書籍圖畫及古版古寫本其他戲作ノ類ト雖凡中古以前ノモノニテ考古ニ屬スル者等

一 扁額ノ部

神社佛閣ノ扁額並諸名家書畫ノ額等

一 樂器ノ部

笛 笙 簫 箏 太鼓 鐘鼓 羯鼓 箏 和琴 琵琶

假面其他猿樂裝束並諸樂器歌舞ニ屬スル品

一 鐘鈺碑銘墨本ノ部

名物並名物ニアラスト雖凡古キ品

一 印章ノ部

古代ノ印章類

一 文房諸具ノ部

机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類

一 農具ノ部

古代ノ用品

一 工匠器械ノ部

同

一 車輿ノ部

車 輿 籃輿等

一 屋内諸具ノ部

房室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具 飲食器皿 煙具等

一 布帛ノ類

古金襴並古代ノ布片等

一 衣服裝飾ノ部

官服 常服 山民ノ服 婦女服飾 櫛簪ノ類 傘笠 雨衣 印籠 巾著

履屐ノ類

一 皮革ノ部

各種ノ皮革並古染革ノ紋圖

一 貨幣ノ部

古金銀古錢並古楮幣等

一 諸金製造器ノ部

銅 黃銅 赤銅 青銅 紫金 錢 錫等ヲ以テ製造セル諸器物

一 陶磁器ノ部

各國陶器磁器等

一 漆器ノ部

蒔畫

青貝 堆朱等ノ諸器物

一 度量權衡ノ部

秤 天平 尺 斗升 算盤等古代ノ用品

一 茶器香具花器ノ部

風爐 釜 茶碗等ノ茶器 香盒 香爐等ノ香具 花瓶 花臺等ノ花器類

一 遊戲具ノ部

碁 將碁 雙六 蹴鞠 八道行成 投壺 楊弓 投扇 歌骨牌等

一 雛轅等偶人並兒玩ノ部

這子 天兒 鰻人形 轅人形 木偶 土偶 奈良人形等其他兒童玩弄ノ諸器

一 古佛像並佛具ノ部

佛像 經筒 五具足 寶鐸等ノ古佛具

一 化石ノ部

動植ノ化石並動物ノ骨角介殼ノ類

右品物ハ上ハ神代ヨリ近世ニ至ル迄和品舶齋ニ不拘

「古器旧物保存方」に示された内容から選定された31種のモノと関わりのありそうな当時の主要な蒐集家達の顔ぶれを、先の『明治辛未物産会目録』からあたりをつけてみよう。31種のモノは、町田久成が大学献言で太政官に突き付けた「天下ノ宝器珍什」と「経歳累世ノ古器旧物」が基本になっている。鈴木廣之によると出品件数全体の4分の3が田中芳男、伊藤圭介、竹本要斎、内田正雄ら4人によって占められ⁽⁸⁾、主に「鉱物」「植物」「動物」部門が他の部門を凌駕して出品件数が多くなっていることが指摘されている。特に古物に関わりの深い出品者としては、主催者側の大学南校物産局の町田久成、田中芳男の他に、伊藤圭介、蜷川式胤、松浦武四郎、柏木貨一郎など、当時を代表する好古家達が名を連ねている。「陶器之部」には田中芳男、小野職愨、竹本要斎、池田哲之丞、清水卯三郎、東文堂清蔵らがみえ、中でも田中芳男は国内外の陶磁器118件を出品している。「古物之部」には、伊藤圭介、田中芳男、町田久成、蜷川式胤、横山由清、松浦武四郎、木村正辞、板橋貫雄、黒川真頼、西宮松宇、鈴木莊司、栗田万次郎、柏木貨一郎、田中仙永、小野職愨、竹本要斎、久保熹三郎、池田哲之丞、神田孝平らが出

品し、蜷川式胤が11件、田中芳男が10件、柏木貨一郎が勾玉雷斧石磐儉釵類96点、「化石之部」には、伊藤圭介が26件、田中芳男が3件、松浦武四郎は、1件、鈴木莊司が1件、柏木貨一郎は、1件の出品が認められる。

主催者を除いてこのメンバーで特筆すべきは、田中芳男の師でありP.f.v.シーボルトに蘭学、本草学を学び、後に東京大学教授となり日本で最初の理学博士の学位を取得した尾張の伊藤圭介や当時外務大録として編輯課御用書類下調掛であり、翌明治6年から博物局御用兼務を兼務して、考証科考古掛内務省八等出仕となった蜷川式胤、北海道の命名者で元北海道開拓判官であり、自身のコレクション図譜である『發雲餘興』を編んだ蒐集家の松浦武四郎、元は幕府の小普請方であり、明治7年から博覧会事務局補正院14等出仕として町田久成に仕えた建築家で蒐集家の柏木貨一郎、国学者で、明治2年昌平学校史料編修に任ぜられ大学中助教となり制度局御用掛語箋編輯として法律制度の整備に携わり、古物に関して『尚古図録』の著書がある横山由清、横山と共に同年大学校中助教となり、明治4年に文部権大助教に任ぜられ、明治10年、博物局の命で『工芸志料』7巻を編纂した黒川真頼など、自身が蒐集家兼研究家として知られた面々であった。中でも特に古物に精通し、まとまったコレクションを有していたのは、蜷川式胤、松浦武四郎、柏木貨一郎らであり、当時の蒐集家の筆頭格と言っても過言ではない。彼らの略歴とコレクションの内容について見てみよう。

蜷川式胤の生家である京都の蜷川家は、丹後の蜷川一族の系譜に属し、代々東寺の公人として優遇され、八条大宮に三千数百坪の土地を与えられた名家である。明治2年、新政府の「制度取調御用掛」となるも制度局廃止に伴い、明治4年外務大録となって文部省博物局御用兼務となった。明治5年の壬申検査では正倉院開封など町田久成らの信任を得て活躍したが明治10年に政府を去り、丸ノ内道三町の私邸に前年に開業した「楽工社」と命名した印刷事業所で『観古図説陶器之部』『微古図説』『好古図説』等を刊行しE.S.モースやビゲロー、A.フェノロサらと交流し彼らのコレクションを指南した。彼のコレクションは、昭和8年の『蜷川式胤追慕録』⁽⁹⁾や昭和11年の『京都東寺蜷川家所蔵品入札』⁽¹⁰⁾に連載されているように考古・工芸・茶道具・書画など極めて多岐にわたるものであったことが理解できる。『京都東寺蜷川家所蔵品入札』からそのコレクションの一端を見ると明治5年以降の社寺宝物調査で関わりのあった「青瑠璃小尺 正倉院宝庫に伝ふる碧瑠璃、黄瑠璃の小尺と同品」「鐵方磬殘方形にして上縁弓形をなし、これに近く方孔あり。十餘枚を一具とし、架に懸け連ね、撥も之を打つ楽器にて、明治八年御調査の砌八枚を存すと微古図録に記載せるも後一枚発見せられて現今は九枚を正倉院寶庫に傳ふるものと同品。」などの正倉院御物や「黒漆懸佩刀」など正倉院御物の模造品、「天平時代迦陵頻迦羽衣 手向山八幡所傳」「天平時代舞楽面 進走徳 新島蘇 手向山八幡所傳」など手向山八幡宮宝物、「夢殿油注 法隆寺所傳」「天平時代竹箆筥」など法隆寺宝物も含まれ、仏像・漆芸・金工などの古代から中世にわたる諸工芸と茶入、茶碗を中心とした茶道具類・書画などが多く含まれていたことが確認できる。その数「其他壹千餘點」とあるように千点をこえる品々が売り立てられた。『京都東寺蜷川家所蔵品入札』から確認できる具体的な蒐集品を「古器物保存方」31種と対比すると以下のように分類できる。

1 祭器 神祭二用ル楯矛其他諸器物等

天平時代舞楽面進走徳新島蘇手向山八幡所傳/伎楽盾 唐招提寺所傳

4 古鏡古鈴 古鏡 青鈴等

藤原時代山吹小禽鏡上賀茂社所傳/賴朝奉納建久六年四月刑部太夫宗清謹作名鶴岡八幡神寶鏡/時代球鏡/藤原時代菊二小禽鏡/漢時代四神四獸鏡/和鏡漢鏡取交數々/柄鏡數十

5 銅器 鼎爵其他諸銅器類

漢銅蟠螭紋鼎香爐

7 武器 刀劍 弓矢 旌旗 甲冑 馬具 戈戟 大小銃砲 彈丸 戰鼓 孃羅

鐵鏢 四枚 南蠻、和蘭、鎌倉/鏢一組信家外メ六枚/鏢一組埋忠明壽外メ六枚/漢時代弩機/刻鞘

藤文蒔絵腰刀小柄埋忠身慶長七年八月忠吉銘/菊地千本槍腰刀/紺糸柄石地塗鞘大小臺腰大備州

友久銘小近江大掾藤原忠廣銘/黒漆懸佩刀正倉院御物模/白牙鞘刀子正倉院御物模/染牙撥鏢刀

子正倉院御物模/正倉院二合刀子模/正倉院御物彈弓腹畫文模太刀/古鏢金家/古鏢在銘数々/古鏢諸岡/備前長船鎧通し應永銘/南蠻鐵胴丸鎧

8 古書画 名物 肖像 掛幅 卷軸 手鑑

古畫春日曼荼羅/伊豆長八作肉泥繪富士山水繪額類品東京美術學校所藏世界美術全集所載高村光雲説明アリ/熊谷蓮生坊草詠/光廣卿短冊/爲恭曲水之宴半切/乾也松竹梅/一絲和尚達磨畫賛/山縣公書三行/乾隆時代版畫魚籃觀音/時代泥繪山水巨勢有忠藤原鎌足公像多武峰社所藏/熊谷蓮生坊草詠/オランダ硝子畫山水額/支那版畫仙女獻花之圖/歌麿美人版畫/爲家歌切/古畫毘沙門天/光悦消息/遠州歌入消息/宗本月畫賛横物/吳山觀音半切/春章美人/英泉美人/奈良絵巻物/大津繪鬼念佛/京傳美人畫賛古近江作三味線添/浮世繪數々/玉峯青楓郭公半切/唐畫山水物双幅/古代美人洋畫額仏蘭西人筆/紅毛人版畫數々/乾隆版畫數々/廣重名所畫數々/長崎版畫數々/神佛古版畫數々/寶永版世界地圖/江戸畫數々

9 古書籍並古經文 温古ノ書籍図画及古版古写本其他戲作ノ類ト雖モ中古以前モノニテ考古属スル者等

天平經卷/弘法大師鼠心經/古經卷一山/春日古版木

11 樂器 笛 笙 革葉 箏 大鼓 鐘鼓 羯鼓 箏 和琴 琵琶 琴瑟 仮面其他猿樂装束並諸樂

暈綢彩色寶相華文雅樂太鼓 鎌倉時代/天鷄神樂笛/黄楊鏤中吹玉御笛/能樂笛/蛇腹断紋琴/時代琵琶/正倉院御物寫琴/能面三個蒔絵箱入/時代太鼓

13 印章 古代ノ印章類

銅關外候印關羽紐印/玄々印材四顆

14 文具諸具 机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類蒔絵硯

平重衡所用松影硯模當麻寺所傳/天平時代猿面硯/時代屏風櫻蒔絵硯箱/時代屏風櫻蒔絵硯箱/端溪硯/風字硯/古墨朱取交十一/瀬田焼獅子帖鎮

18 屋内諸具 屋室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具 飲含器具 煙具等

八幡形五斗臺手向山八幡宮所傳／夢殿油注 隆寺所傳／天平時代竹簞筥法隆寺所傳／竹帙春日神社所傳／東寺羅生門釘隱／清涼殿鐵釣燈爐／時代木地双鶏置物／伊勢御幣櫃元禄年銘／藪内好旅簞筥此老齋書付／官林庵好木地長板大小一組／遠州高取水屋壺／遠州好寄木棚／古赤絵火入／モール水薬罐／連月急須／象谷柿彫盆／志野三段重／長寛菓子盆五枚／古代ギヤマン食器數十種／押小路焼銚子／天貓乙御前銚子／浄味平丸銚子／彌五郎阿古陀銚子／浄玄菊形銚子／桃山時代鐵燭臺二／時代大内蒔繪手燭／桃山時代菊彫欄間／時代大魚盤

20衣服裝飾 官服 常服 山民ノ服 婦女服飾 櫛簪ノ類 傘笠 雨衣 印籠巾着 履屐之類

紺地唐組鳳凰紋續平緒久我家傳來／保全和全根付紐ノ計三個／乾也乙御前根付／近江八景蒔繪印

籠

24陶磁器 各国陶器磁器等

(皿)

古九谷杜若蝶繪皿／源内焼色繪皿／小代焼平目形皿／阿蘭陀色繪エンゼル皿／乾山蕨繪色紙皿／志野皿二枚／源内焼垂米利加地圖皿／潁川赤繪梅月繪皿／織部志野取交行燈皿／織部大平皿径一尺六寸六分／伊萬里日本地圖大皿／伊萬里地圖皿／伊萬里地圖皿／織部墨流大皿／青九谷額皿／赤繪百字手皿／紅毛畫替り皿／紅毛ダンス繪皿／三楽園焼中皿／柿右衛門菊形皿／伊萬里地圖皿數々／志野織部行燈皿數々／織部行燈皿數々／木白繪代り小皿廿／

(鉢)

黄瀬戸あやめ手鉢鉢／潁川赤繪鉢／志野額鉢／黄瀬戸鉢鉢／和全金欄手鉢／織部長角鉢／志野四方小鉢／志野額鉢／黄瀬戸輪花小鉢／朝鮮唐津ハツ橋鉢／梅林焼燕鉢／犬山焼鉢／古清水鉢／潁川赤畫五角鉢／和全金欄手菓子鉢共箱／湖東赤畫寫臺鉢／桃山焼雪笹鉢／紅毛小鉢數々

(壺)

交趾唐草三耳壺／釉伽羅壺

(盃)

米人形手寫盃金府在印／木米八角青瓷酒吞金府在印／伯庵手六角酒吞／三島盃／保全金欄手盃染付盃臺添共箱／紅毛盃數々

(德利)

古備前大黒天德利／上野焼猩々德利／梅林焼茄子德利／吸坂焼德利／紅毛德利／髭德利

(その他)

角火入／織部敷瓦寸松庵傳來／東寺羅生門敷瓦／古薩摩帖佐焼小片口／木米御本寫盃洗竹泉箱書付／朝鮮唐津振出／織部井戸車墨床／潁川赤繪盛衰瓶／織部水盤／保全金欄手盃臺／萬古安東焼火入／潁川赤畫火入一對

25漆器 蒔画 青貝 堆朱等ノ諸器物

菊蒔繪錫椽手筥／時代黒春日卓横螺鈿蝶蜉蝣模様／唐物甲朱ツバメ盆／東山時代秋草蒔繪錫椽香合銘宮城野／東山時代松橋蒔繪錫椽香合／時代菊蒔繪錫椽香合／葵紋蒔繪狭み箱／呂宋眞壺蓮華王／秀衡桃并に時代色繪膳／時代根来ルツ數々／松竹梅蒔繪小駝箱

26度量權衡 秤 天平 尺 斗升 算盤等古代ノ用品

青瑠璃小尺正倉院宝庫に伝ふる碧瑠璃、黄瑠璃の小尺と同品／朝鮮米量り数々

27茶器香具花器 風炉 釜 茶碗等ノ茶器 香盒 香炉等ノ香具 花瓶 花台等ノ花器類

(風炉)

浄林鐵朝鮮風爐

(釜)

寒雉萬代屋立鶴地紋釜／古天明透木釜／浄久菊地紋操口平釜／古蘆屋葡萄地紋釜／彌五郎九輪釜／道仁霰操口尾垂釜／古道彌車軸釜／浄清甌口尾垂釜／古天猫肩衝檜垣地紋釜／天猫乙御前釜／浄清霰瓢箪釜／浄味巴釜／浄林尾上釜／浄林撫肩釜／浄雪丸釜／浄雪萬代屋釜／道也車軸釜

(茶碗等ノ茶器)

○茶入

古瀬戸茶銘柳蔭／備前緋襷茶入／仁清瓢茶入袋金毛織宗和公箱書付／高取茶入三斎侯箱書付／瀬戸芋ノ子茶入宗和箱書付銘釣鐘／瀬戸捻貫茶入銘布引松平備前守箱書付／瀬戸玉柏手茶入銘晚鐘怡溪和尚箱書付／利休瀬戸茶入／春慶累座茶入／志野葛屋香合／黄瀬戸蘭絵杓立／仁清口瓢茶入／唐物内海茶入／利休肩衝茶入／丹波一筋なたれ茶入宗中箱書付／織部耳付茶器／杜園着彩鴛鴦香合／唐物丸壺茶入挽屋舟越伊豫守／織部茶入袋大阪蜀金／黒織部耳付茶入／膳所手付茶入／藤四郎春慶柿茶入袋絹巴裂／高取肩衝茶入宗和候銘星ノ空袋金襴織留／南蠻釣付茶入／藤四郎肩衝茶入彫銘有／薩摩鶴首茶入／古瀬戸肩衝茶入銘鷹山／高取片手付茶入／瀬戸大肩衝茶入／薩摩肩衝茶入／薩摩杵形茶入／天印茶入取交十個（高取皆口・備前青手・薩摩蛇目形・唐物小肩衝・瀬戸芋ノ子・瀬戸脛高・島物胴高・備前肩衝・丹波文淋茶入・天目大海）／地印瀬戸茶入取交十二個（廣澤手・渋紙破風手・飛春慶内海・飛春慶車軸・金華山茄子・金華山瓶子・芋ノ子・後黄釉・織部肩衝・椿手・春慶柿・小瀬戸水滴）茶入取交十個（美濃小文淋・瀬戸丸壺・丹波塗土摺座・黄瀬戸大海・美濃口廣手・天目釉瓢・尻膨・丹波大茄子・小瀬戸水滴・面取手）／仁清四方茶入／榮々園焼茶入／瀬戸野田手茶入銘羽衣／瀬戸肩衝茶入銘遠山／瀬戸橋姫手茶入／瀬戸渋紙手茶入銘翁／春慶肩衝茶入銘朝霜／膳所焼茶入台座付／明石焼手付茶器／直齋詩棗／象牙茶入ノ蓋九十餘枚／茶入袋数々

○茶碗

志野四方茶碗／唐津雲鶴写茶碗／高麗茶碗／志野茶碗銘籬／九朗瀬戸黒茶碗銘松風／織部州濱形茶碗／堅手割高台茶碗／仁清櫻絵茶碗／長入赤茶碗茶湯歌／光悦黒茶碗銘照葉／朝鮮唐津茶碗／彫三島茶碗／建盞天目 宗中箱書付／蕎麦茶碗銘小倉山／仁清夜櫻茶碗／古萩違榎茶碗堅手茶碗宗和公箱書付／仁清梅もどき繪茶碗／仁清歌留繪茶碗／堅手茶碗／伊羅保茶碗 清水／宗也手造赤茶碗銘不背太郎庵箱書付／乾山山家繪茶碗／古瀬戸平茶碗／御本狂言袴茶碗／黄天目 宗中箱書付／呉器茶碗／刷毛目茶碗／藤四郎塩桶茶碗松平備前守箱書／仁清菊花天目惺斎箱／藤四郎天目／瀬戸黒筒茶碗／仁清水仙繪薄茶器／湖東焼花筏茶碗／織部杳茶碗／御本歪茶碗／雲鶴三島茶碗／繪瀬戸鳴子繪茶碗／道正庵手造片口茶碗／了入黒茶碗銘山道惺斎箱書付／朝鮮唐津茶碗小判形／赤膚木白織部寫茶碗／花三島茶碗／高麗和手茶碗／黄天目茶碗／呉器茶碗／熊川茶碗／紅葉呉器茶碗／魚屋茶碗／刷毛目平茶碗／釘彫伊羅保茶碗／黄伊羅保茶碗／安南絞り手茶碗／祥瑞湯呑／稻荷山焼黒茶碗／谷焼赤茶碗／上野焼茶碗／姥ヶ餅松竹梅茶碗／柳原焼茶碗／保全雲鶴寫茶

碗／志戸呂喰違茶碗／志賀焼茶碗／是閑唐津茶碗／献上唐津茶碗／仁清高取寫平茶碗／仁清瀬戸寫天目茶碗／織部杳茶碗／瀬戸助角茶碗／八代葵紋茶碗／松本萩茶碗／鹿脊山焼茶碗／木白御本立鶴寫茶碗／鷹ヶ峯焼平茶碗／秋二俵茶碗／了入塩筒茶碗／旦入慶入合作黒茶碗／瀬戸唐津茶碗

○水指

仁清信楽寫水指／仁清縄簾水指／古瀬戸輪花水指遠州箱書付／仁清平水指／志野平水指／備前種壺水指／丹波茄子耳水指／端之瓢形水指／男山焼水指／古會部一重口水指／了入矢筈口水指／三彩水指

○向付

志野織部寄合向附六／染付半開扇向附五／染付海老向附五／染付牛向附五／鼠志野小代乾也寄向附五／織部寄向附六／志野朝日萬古寄向附六／黄瀬戸向附五／御菩薩向附五

○その他

江雲共筒茶杓玄中玄／玄々斎共筒茶杓歌銘／織部茶杓稻葉正喬筒／宗拙茶杓直齋箱／道安茶杓半床庵箱／八田玄齋灰器／穎川赤繪蓋置／南蠻ハンネラ建水／浄盆官休庵形建水／東大寺古材爐縁／志野累座火入／刷毛目下敷數々／一指齋武蔵野置／萬古一閑人蓋置／浄雪大角豆鐙／道爺釜鐙／浄味鐵花鎖／唐物八角炭斗／寸松庵敷瓦／官林庵好玉川灰器／伊賀灰器／信楽半田／桑遠州好水指棚

(香盒)

志野角香合／真葛鳩香合共箱／交趾額梅香合身長寛補／仁清笛香合／仁清寸胡録香合／湖東焼織部寫香合／交趾栢榴香合／保全亀香合／一啜齋蜜柑香合／竹翁好梅香合／龍文堂獅子香合／賤機焼猪香合／因久山兎香合／一方堂干支香合／木米染付寫梅香合／木白奈良人形香合／蘇山俱輪香合

(香炉等ノ香具)

龜祐青瓷布袋香爐／萬古折鶴釣香爐／後樂園焼布袋香爐／黄瀬戸一重口香爐／青瓷耳附三足香爐／蘇山漢窯寫香爐

(花瓶)

李朝染付花瓶

(花台等ノ花器類)

仁清普門品彫花生／古伊賀花生／湖東焼染付釣瓶花生井筒形水盤／丹波焼朝倉山椒花生／青瓷唐草地紋大花生／エジプト花生／伊賀花生／古銅法華寺形花生／直齋竹一重花入／時代鷹餌籠花入／現川焼花生／

28遊戲具 碁 将棋 雙六 蹴鞠 八道行成 投壺 揚弓 投扇 歌骨牌等

時代蒔繪双六盤

29雛幟等偶人并兒玩 這子 天兒 雛人形 幟人形 木偶 土偶 奈良人形等其他兒童弄ノ諸器

時代木刻色絵大黒天像／幸右衛門お福置物／瀬戸獅子置物一對／伏見焼乙御前置物／源内焼獅子置物

30古仏像並仏具 仏像 經筒 五具足 宝鐸等ノ古仏具

天平時代迦陵頻迦羽衣 手向山八幡所傳／鐵方磬殘 正倉院寶庫に傳ふるものと同品／乾漆仏像

破片 三月堂/天平時代聖觀世音像/銅水瓶 鎌倉時代/杜園東大寺南大門仁王像/杜園東大寺戒壇院四天王ノ内持国天像模/法隆寺百万塔陀羅尼入

「北海道の名付け親」として知られる松浦武四郎は、文化15（1818）年2月6日、和歌山藩領の伊勢国一志郡須川村（現三重県松阪市小野江）に紀州藩郷士松浦桂介の三男として生まれた。13歳から津藩の儒者である平松樂斎の私塾で学び、16歳で江戸に家出した後、17歳から26歳に至る10年を諸国放浪に費やした。長崎でロシアの南下を耳にして以来、その眼差しは蝦夷地に注がれ、弘化元（1844）年より彼の地を目指し、翌年志を果たしたのである。その後私人として3回、幕府雇いとして3回の蝦夷地調査を敢行し、嘉永3（1850）年の『初航蝦夷日誌』全12冊を皮切りに蝦夷地を紹介する多数の紀行類を出版、名実共に武四郎の名は広く世に知られたのである。中でも安政5（1859）年に刊行された『東西蝦夷山川地理取調図』28巻は、279名に及ぶアイヌ民族の協力を得て、蝦夷地の内陸までくまなく踏査した地勢図で、後の北海道の国郡名選定に反映されるなどその価値は高く評価されている。明治2（1869）年には政府から正式に蝦夷開拓御用掛、開拓判官の命を受け開拓大主典の要職に就くも、翌明治3年には利権を手放さない旧体制への不満と開拓使内部の腐敗を理由に職を辞し後の人生は古物蒐集に没頭し、数多の好古家達との交流をもって蒐集と研究に明け暮れたのである。松浦の蒐集の歴史は幼少期にまで遡り、其の頃から拘った古銭に関しては、明治10年台には、愛泉家番付で2番目にあがるほどであった。その実力を示す史料として元治2（1865）年、武四郎47歳の自筆稿本であり、和洋の古銭についての緻密な分析が加えられている『昌平宝鑑』や『洋貨図録』等があげられる（石水博物館所蔵）。生涯に互って蒐めた古銭類の多くは、明治10年3月21日に大蔵省に三竿分献納した事（明治10年3月24日付朝野新聞）が判明している。好古家としての具体的な活動としては、明治元年12月より毎月21日に自居で「尚古会」を開き、多くの同好の輩と交わる中で、明治6年頃には、すでに東京において名声を得ていた事が知られ、古典籍に関する造詣も深く、蔵書に関しては神田五軒町に居を構えた明治9年に、東京書籍館（現国会図書館）と開拓使（現在は北海道立文書館所蔵）に納本されている。

生涯に互って蒐集した古物は、膨大な量に及んだことが推定され、現在行方が判明しているのは静嘉堂、松浦武四郎記念館、国際基督教大学、前田育徳会等に収蔵されており、その内容に関しては、ほぼ把握できている⁽¹¹⁾。これら蒐められたモノや自書、自筆稿本⁽¹²⁾からアイヌ民族関連資料を除く武四郎の確認できる具体的な蒐集品を「古器物保存方」31種と対比すると以下のように分類できる。

2 古玉宝石 曲玉 管玉 瑠璃 水晶等ノ類

勾玉/管玉/切子玉/丸玉/大珠/ガラス玉/三輪玉/白玉/平玉/獸形玉/琥珀玉

3 石弩雷斧 石弩 雷斧 霹靂碓 石剣天狗ノ飯匙等

石鏃/磨製石斧/磨製石斧/磨製石斧/履/石製摸造品/鋏形石/車輪石/石棒/石錘

4 古鏡古鈴 古鏡 青鈴等

六鈴鏡/和鏡/青銅柄鏡/梵字名鏡/方格規矩八獸鏡/鬼面鈴/桃形鈴/六角鈴/六鈴釧

5 銅器 鼎爵其他諸銅器類

獸耳壺/敦/綯紋龍耳罍/兕觥蓋/燠斗/鳥型柄頭/車軸金具/銅戈/獸耳壺/敦/綯紋龍耳罍/

兕觥蓋/燂斗//金環/銀環

6 古瓦 名物並名物ナラズト雖古キ品

興福寺瓦/硯瓦硯

7 武器 刀劍 弓矢 旌旗 甲冑 馬具 戈戟 大小銃砲 彈丸 戰鼓 字羅

銅鏃/刀子/鉄鏃/鉄矛/刀子/小柄金具/寶珠鏢/鈴杏葉/三鈴環/三鈴杏葉/五鈴杏葉/雲珠/
金銅製鐙

8 古書画 名物 肖像 掛幅 卷軸 手鑑

源烈公御詠/讃岐切小幅/焼裂/紫裂明/好法師書/洪団扇

14 文具諸具 机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類蒔絵硯

絵硯/伊部硯/猿面硯/敬月硯/筆/天正年墨/藤代古墨/蒔絵文箱

18 屋内諸具 屋室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具 飲含器具 煙具等

巾着袋/煙管/一畳敷(社寺の古材)/版木

25 漆器 蒔画 青貝 堆朱等ノ諸器物

漆箱/蒔絵巴紋様漆箱

22 貨幣 古金銀古錢並古楮幣等

ローマコイン/和同開珎/永樂通宝銀錢/金銀貨

26 度量權衡 秤 天平 尺 斗升 算盤等古代ノ用品

枰

28 遊戲具 碁 将棋 雙六 蹴鞠 八道行成 投壺 揚弓 投扇 歌骨牌等

双六/老猿面

29 雛幟等偶人并兒玩 這子 天兒 雛人形 幟人形 木偶 土偶 奈良人形等其他兒童弄ノ諸器

聖徳太子像/武者像/猿田彦大明神像/宇須女像/西行法師像/西行法師座像/僧照偏正

田村將軍像/木製鬼面/摩河酒佛像/老子像

30 古仏像並仏具 仏像 經筒 五具足 宝鐸等ノ古仏具

頼朝坊仏/石仏/泥仏/千躰仏/九十九千躰仏/磚仏/鉄仏/泥塔/真鍮製宝/土製五輪/百万塔
陀羅尼經/瓦經

31 化石 動物ノ化石並動物ノ骨角介殻ノ類

石螺(北海道浦川産)鸚鵡螺一種巨大者(明治4年物産会に出品記録)

幕末維新期の古美術鑑定家、蒐集家として知られた柏木貨一郎(諱は政矩、号は探古斎)(1841-1898)は、義父柏木因幡から江戸幕府小普請方大工棟梁を継いでまもなく明治維新後をむかえて職を失いながらも、古美術蒐集家として悠々閑々の日々を過ごした。明治4年の大学南校物産会には、鑛物門化石之部に「一魚齒化石右柏木政矩出品」、古物之部に「一勾玉雷斧石砦石釵類九十六品右柏木政矩出品」と記録されているとおり、魚類化石と共に96点に及ぶ石器類を出品している。明治5年の文部省博覧会 出品目録草稿には、「一雷斧二ツ連者(朱文)雷斧ノ造り懸ケニテ一箇一雷斧鋸右柏木政矩」「一播磨國極楽寺瓦經并願文三枚 右柏木政矩」と記録され、石斧や瓦經を出品し、明治6(1873)年の文部省博覧会の出品目録には「一古代櫛八枚 柏木政矩」「一播磨極楽寺經瓦二柏木政矩」とみえ、古代の櫛や瓦經を出品している。

同年、3月15日から5月15日まで開催された三重県山田大世古町の旧龍大夫邸で開催された伊勢山田博覧会にも「一、鏤牙尺模 岩代國耶麻郡惠日寺所傳柏木貨一郎」「一、同法隆寺所傳同」「一、神像古鏡 柏木貨一郎」「一、徳川台徳院所用烟管井銅筒柏木貨一郎」「一、北条氏文書同柏木貨一郎」「一、同高辯書性靈集殘卷 柏木貨一郎」「一、弘安以下具中曆殘缺柏木貨一郎」の記録があり、7点の出品、さらに明治7年開催の聖堂昌平坂書画展には、「上同本阿彌切柏木探古」「上三島岡麻呂經卷柏木探古」「上 土佐光長地獄寶卷 詞書寂蓮 柏木探古」の3点の出品が認められる。

明治5年には、蒐集家としての才と画の技量を見込まれ、町田久成、蜷川式胤等と共に古社寺宝物調査（壬申検査）に随行し、後に博物館御用掛のポストに就いた。古美術や古書などの鑑定に長じ、国宝「源氏物語絵巻」を所持した高名な美術品蒐集家、民族学、古代史研究者、画技に優れた文化財の記録者でもあり、建築家としては、維新後も日本建築に拘り、その作品としては三井有楽町集 会場、飛鳥山渋沢邸などが有名である。

明治10年前後までの柏木の主な興味は考古遺物や古銭などの古物を中心としたモノであったことが理解できる。そもそも貨一郎の「貨」の字は、彼が柏木家第九世を継いだ慶応4（1868）年頃から貨幣の歴史に入れあげていたから名乗ったという。彼の事績は拙稿⁽¹³⁾、古銭蒐集については本鎌形慎太郎が根岸武香との関連性を明らかにしており、その詳細は委ねる⁽¹⁴⁾が、柏木の名は、明治13年の『愛泉家一覧』に前頭として記載されるほど名の通ったコレクターであったことがわかる。

一方、古物以外のモノへの探究心も強かったことは、慶応2年頃に編んだ『集古印史』『女装考』などの著作や古代史研究者としての活動からも理解できるところである。また、明治6年の伊勢山田博覧会や明治7年聖堂書画大展覧には、北条氏文書や『地獄草紙』を出品しており、この段階ですでに書籍、絵画の蒐集家としての土台が出来ていたことがわかる。また、明治11年には黒川真頼（1829-1906）との共著で『工芸志料』蒔絵の部も刊行し、明治12年の識のある柏木探古稿本『東寺堂塔興廃表并記事等雜記』なども知られている。柏木の多様な蒐集品の記録については、明治11年に創設された龍池会が主催した古美術品の鑑賞会である「観古美術会」の出品目録には柏木が出品した古美術の記録が断片的ながら残されている⁽¹⁵⁾。「観古美術会出品目録第三号（明治13年3月）四天人形^{上代影} 一個、硯箱^{上代時絵} 一個、辛櫃^{藤時絵} 一個、散蓮華経画^{本畫} 一個、花瓶^{青磁}、画卷^{福富長者} 一卷」「第三回観古美術会出品目録第三号（明治15年）古今利鉢、南京十錦手皿、白磁葬式香爐」「第三回観古美術会出品目録第五号（明治15年）薬師十二神将木像、西方天春属木像」乙集には、貨一郎所蔵文書・地図類の他に、佛物・塔・法物・布薩調度・楽具・僧物・供神・料器・通物・大衆・鋪設など仏具などの類の他に、佛物・塔・法物・布薩調度・楽具・僧物・供神・料器・通物・大衆・鋪設など仏具などの器物が含まれていたことがわかる。また、急逝して3年後に遺愛の品々を集めた明治34（1901）年の『柏木探古遺愛品列品目録』⁽¹⁶⁾には、238点（掛物21点・巻物10点・茶器95点・会席家具112点）の品々が個別具体的に明らかにされており、具体的な蒐集品を「古器物保存方」31種と対比すると以下のよう

8 古書画 名物 肖像 掛幅 巻軸 手鑑

道風朝臣古今集本阿弥切 / 眞名畠山牛菴枳表具中風紫紬地印金 / 行成卿公任卿兩筆法華經譬喻品 歌古今集秋の上忠岑詠譯文元致上人表具中白地印金 / 定家卿名所百首ノ中佐良之奈 / 同大記録 / 平相國三月七日消息文杉原二枚継 / 寧一山潤水云々一行五字表具中舟越廣東箱書了音 / 同本來云々一行五字王舟和尚添狀二通醸愚庵 / 一休禪師宵女夜話七言絶句詞書アリ / 御着到の歌題五月雨 宸筆共九者 / 珠光文 / 古市播磨法師 / 宗旦半切文六月十九日 / 巨勢金岡 / 鷺王手阿彌陀抱一上人箱書同上人旧藏 / 土佐長隆鏡山圖家隆卿歌賛 / 雪壽老圖安信外題□信箱書 / 正信宗祇像 / 興以山水 / 探幽水田芦雁圖 / 足利義持公松下馬上人物圖義昭公賛尚古圖録所載 / 常憲院殿自畫賛 / 古画 / 羅漢圖 / 顧野王玉篇自放部至方部一卷 / 文館詞林第六百六十八卷一卷 / 萬里小路宣房卿”笠置切・法華經第六卷奥書正中三年四月十六日署名花押”一卷 / 源頼朝狀”二月廿一日大佛殿ノ事壽永三年四月三日大佛殿修復用途ノ事”三卷 / 高山寺古文書三卷 / 水無頼殿歌合卷後小松院宸翰□□ 一卷 / 名香合セ卷判三條西殿宗養一卷 / 道成寺縁記繪卷古土佐一卷 / 浮世人物繪親筆一卷 / 裂鑑帖 一冊

11樂器 笛 笙 革葉 箏 大鼓 鐘鼓 羯鼓 箏 和琴 琵琶 琴瑟 仮面其他猿樂装束並諸樂
古近江作三味線 銘瓢 抱一上人發句並粉字箱書

14文具諸具 机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類蒔絵硯
金地巴蒔繪小硯箱見返刑部梨子地松蒔繪 / 竹蒔繪青貝入小硯箱引出シ付 / 梨子地獅子蒔繪硯箱見返牡丹 / 古銅釣付水滴

18屋内諸具 屋室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具 飲含器具 煙具等
足利時代水次藥罐 / 燈具”隆慶平製下皿赤繪安南下皿織部油次鶯塚燒雀皿同懸燈械”
察甫□袴固□這州沓付 / 古染付筒眞切溜桑柄眞切付 / 應量器妙心寺塔中天祥院常什六客 / 同飯臺妙心寺塔中天祥院常什六客 / 大德寺小飯臺五客 / 白檀膳鎌倉圓覺寺什五枚 / 同酒椀茶津六人前 / 名越汁鍋石州好 / 鈔張汁次 / 松の木盆官休菴在判 / 古鏡寫袋形菓子入 / 宗品穗屋付火入 / 伊部透シ付火入 / 銀南京急須 / 桑手付長角蓆盆 / 根來小判形手付蓆盆 / 時代木地長角蓆盆 / 桑袴腰蓆盆遠州好 / 青貝轡長火鉢 / 香棚遠州所持袋戸松花堂画 / 香棚遠州所持袋戸松花堂画 / 紫檀扉付水指棚遠州好外箱内松花堂反古張 / 志野棚 / 根來卓 / 卓押板 / 螺鈿梅散シ時代簞笥 / 法隆寺唐櫃櫃裡寺印有 /

19布帛 古金襴並古代ノ布片等
布帛古金襴並古代ノ布片等 / 時代更紗

24陶磁器 各国陶器磁器等
(皿)

古清水柘榴畫皿十人前古今利錦手小皿廿人前 / 古染付小皿 / 五人前 / 紅毛角形小皿二枚 / 古曾部燒海老畫小皿十枚 // 古曾部燒海老畫小皿十枚 / 古今利鉄扇花畫行燈皿 / 染付花鳥模様皿成化銘 / 井戸脇皿 / 乾山椿畫蓋茶碗五人前

(鉢)
繪高麗小鉢 / 紅毛平鉢 / 繪高麗小鉢 / 奥州赤繪小鉢 / 古今利金繪草花小鉢 / 青磁平鉢 / 道光年製染付大鉢 /

(盃・酒器)

赤樂硯猪口吉左衛門共箱十五人前/和蘭陀盃/伊部盃/高麗鳥の子盃/成窯鬪鷄盃成化銘/赤繪四方盃嘉靖銘/汝窯白瓷盃/珠光青磁盃/青磁蟹見込盃/黄瀬戸盃/石盃/井戸酒次/井戸脇酒次/繪高麗酒次/光琳模様德利善五郎作一對

(その他)

25漆器 蒔画 青貝 堆朱等ノ諸器物

十種香箱”遠州所持鼈甲小色紙山水蒔繪”皆具/唐物青貝花鳥箔繪膳五枚/朱塗櫛小丸吸物膳十人前/黒根來丸飯汁椀四人前/溜塗腰糸目吸物椀十人前/黒青貝椀蓋盃兼五人前/金閣寺椀朱縁黒唐草蒔繪飯汁二ツ揃十人前/黒手付割蓋飯鉢/根來朱汁次/春慶塗縁高大徳寺三玄院什器十人前/朱根來椿皿十枚/根來朱猪口十人前/朱根來酒器法の物/唐物若狭盆/同内朱籠目軸盆/堆朱軸盆/黒塗梅花形盆金縁牧村遺物/堆朱樓閣人物彫八角盆桑圓遺物狀添/春日盆/唐物朱四方盆金縁石州候所持箱ニ花押有り/黒根來菓子鉢/根來内朱惣菓子盆/同朱胡桃足大丸盆/唐物黒内朱平喰籠/根來内朱惣菓子盆/黒根來大鉢三組/高臺寺黒鉢の子四ツ組/菊水蒔畫湯桶/ハッ橋蒔畫湯桶/朱根來手箱天文六年六月日四谷齊慶院トアリ/唐菊紅葉色繪乱箱/撫子蒔繪錫縁乱箱/宗甫好卷物箱/芥子圖螺鈿卷物箱/朱根來手箱天文六年六月日四谷齊慶院トアリ/時代梨子地秋草蒔繪手箱引出シ付/時代桐紋蒔繪簞笥”豊大閣ヨリ典藥武田法印ニ給ハル所ノ菓籠ナリ同家旧蔵”/時代蒔繪胴乱形印籠豊公御所持尚古圖録所載/柳櫻蒔繪丸茶箱/春慶青貝入七寶蒔繪茶箱/張抜蒔繪香箱

27茶器香具花器 風炉 釜 茶碗等ノ茶器 香盒 香炉等ノ香具 花瓶 花台等ノ花器類

(風炉)

辻井播磨達磨堂風爐/奥次郎風爐五徳浄味証書添/黒風爐大板

(釜)

寒雉瓜形釜/全井桁釜唐鏡蓋/道也姥口釜/天明罐子釜/鈴木瓜形釜駒/同龍象眼釜鉤

(茶碗等ノ茶器)

寒雉阿古多形鉄瓶/同瓢形鉄瓶

○茶入

鶴物耳附丸壺茶入”遠州所持後土居家□書付遠州袋二紺地金翻五色笹曳”/正信春慶茶入”銘漣酌 書付遠州袋ニ金もふる五色筋金欄”/唐物耳付茶入袋金毛□々留/仁清細茶入袋金欄/紹鷗時代黒大棗”蓋裏佐久間不于齋在判箱書共袋古金欄大牡丹天鷲地金欄”/唐物青貝八角茶器瀟湘八景/唐物赤無地古滿棗箱書付遠州/青磁下蕪花入秘色/呂宋三足花入/鈔張小判形掛花入/印度焼花入/鈔張經筒花入/時代竹組瓢形花入/不味侯作花入中口切円城寺受口/織部一重切花入/竹二重花入”因判作浪ニ亀蒔繪文和元壬辰歳五月八日花押”

○茶碗

光悦赤筒茶碗銘下紅葉箱書付遠州/ノンカワ黄樂茶碗角高台箱如心齋/井戸塩筥茶碗箱書付遠州/志野茶碗歌銘玉露や遠州書付/千種伊羅保茶碗片身替一文字/井戸小カンニウ小服茶碗/瀬戸伯菴茶碗/黄瀬戸大茶碗箱書付小堀櫃十郎/同景次茶碗在判/仁清茶碗銘山の艸/鼈蓋平茶碗/白高麗梅の繪茶碗/大井戸茶碗/熊川茶碗/瑠璃祥瑞茶碗/雲鶴青磁手平茶碗/染付茶碗疊米箱書付/祥瑞湯呑/利休象牙茶杓筒宗旦替筒直齋箱典/古今利錦手大蓋茶碗/南京三ツ組茶碗

○水指

信楽一重口水指／鈔張大水指／青磁大水指共蓋／呉州染付水指共蓋／瀬戸澁紙手水指

○建水

伊賀焼建水／備前焼建水

○水鉢・水盤

唐銅手付水鉢／砂張水盤

○向付

白日紅木瓜形向付八枚／赤繪十斤手猪口向付十人前

○その他

竹面取中次銘此君杉木善齊歌在判／幽齋長茶杓筒古市得齊箱書付共／宗甫茶杓歌銘面影箱書付蓬露／佐久間將監茶杓筒木口ニ佐將ト有り／石州候茶杓ニ伊藤殿ト有箱□林宗源／少菴象牙茶杓 共筒箱書曾原叟／瀬田掃部茶杓村山長古文添／青磁獅子臺／赤繪四方三段重蓋物（香盒）

浮線綾蒔書香合／青磁雀香合／交趾狸繪香合／仁清鰐口香合／同絲瓜香合／本地梅蒔繪香合／黑蜀葵形香合／堆朱樓閣人物彫香合／キンマ長角香合／山水人物蒔書藤の實形香合／（香炉等ノ香具）

紅葉賀蒔繪十種香箱源平競昌皆具／碓袴腰香爐／祥瑞八角香爐一對／伯菴香爐／蒔繪火取香爐／青磁杪立

○その他

（灰器）南蠻内澁灰器／備前火櫛灰器／南蠻内澁灰器／時代鉄灰七／石州好桑柄灰七火箸）
象眼入火箸”松花堂所持瀧本坊書付”（蓋置）出雲石蓋置／祥瑞輪蓋置在銘／宗旦竹蓋置在判（茶臼）外黒塗膝臼／大形茶臼

30古仏像並仏具 仏像 經筒 五具足 宝鐸等ノ古仏具

青磁三具足／赤旃檀釋迦觀音小佛壹基二面／古銅觀音立像／深草焼竊觀音／法隆寺捏盤土偶

柏木の旧蔵品で最も知られた蜂須賀家本『源氏物語絵巻』（五島美術館蔵）については、すでに益田孝（鈍翁）の手に渡った後であるため記録は認められない。茶器、会席家具の多くは、益田との交友関係に起因する。明治13（1880）年に御殿山の益田邸内に禅居庵という茶室の設計や晩年手がけた飛鳥山洪澤男爵邸、無心庵などの設計を依頼されるなど、近代初期の数寄者たちの人脈の中であってその世界にくみされていたからに他ならない。

このように、幕末維新时期にあつて特に古物に精通し、当時の収集家の筆頭格であつた3名の蒐集品についてその内容をみてきた。「古器旧物保存方」31種のうち一 農具ノ部、一 工匠器械ノ部、一 車輿ノ部以外の種別をほぼ網羅していることが理解できるだろう。時代を先導した蒐集家たちが編んだ一つの世界観が守るべきモノの総体として「古器旧物保存方」31種に盛り込まれていることが理解できるだろう。次に彼らが夢中になったモノの価値観の形成過程についてみてみよう。

古物の価値観形成にかかる階梯

個人のコレクションは、持主の嗜好性や身につけた学問によってそれぞれが影響しあい一つの世界観をかたちづくる。個々のコレクションという小宇宙は、蒐集家同士の競争によってその価値観を共有し、さらに高みを目指すものである。そこには価値観を共有できる一定の基準や範となる公儀の調査や先行する蒐集者が存在する。18世紀には、政権の中枢を担う将軍や老中といった権力者自らも古物への強い関心を示した。もっとも、3代家光や11代家斉も故実家の伊勢家所蔵什物の小鳥丸太刀や家伝書籍を、6代家宣も本多忠勝の兜や蜻蛉切鎧を上覧した事実が『寛政重修諸家譜』には記されるが、『同家譜』によると什物上覧の大半は吉宗によって行われ、吉宗の独自の行為と捉えられると岡崎寛徳が指摘する⁽¹⁷⁾。価値観の基準を形示するのが、それまでの価値観をまとめ上げた刊行物であり、元禄7（1694）年に編まれ、江戸時代を通じて幾度も版行された価値あるモノの図譜である『万宝全書』⁽¹⁸⁾や寛政12（1800）年、老中松平定信を中心に儒臣広瀬蒙斎や柴野栗山、屋代弘賢、鵜飼貴重ら国学者や家臣、絵師谷文晁らによって刊行された『集古十種』などである。編者菊木嘉保による『万宝全書』は、巻1、2、3は本朝画印伝378人、雑伝64人巻4は唐絵画印伝178人。巻5は和漢墨蹟印尽92人。本朝古今名公古筆諸流34家。古来流行御手鑑目録751。巻6、7は故家名器真形之正図47品。和漢名物茶入肩衝目録191。巻8は和漢諸道具見知抄38品。巻9は和漢古今宝銭図330余品。巻10、11、12は古今銘尽合類大全。巻13は彫物目利彩金抄であり、基本的に本書が編纂された元禄頃の価値あるモノである書画、茶道具、古銭、刀剣、金工といった言わば日本の伝統的な美術工芸の王道が、時代を経る毎に内容を改定しながら列挙されている。一方、『集古十種』85巻は、儒臣広瀬蒙斎が依命執筆した成稿年と推定される寛政12年の序があり、全国各地に伝わる宝物の標題、所在、寸法を記述した碑銘、鐘銘、兵器、銅器、楽器、文房、印章、扁額、肖像、古書画1859点が収載される。これもまた、公儀による全国的な視点で価値あるモノが確認できる図譜といえる。

学者、素封家による蒐集や記録も個々のコレクション形成に大いなる影響を与えた。例えば蒐集家で考証家であった籐貞幹の蒐集品は没後、佐々木春行、山田以文によって編纂された『訪古遊記』に記されたものを吉澤義則が全文を紹介し⁽¹⁹⁾、これをもとに内田好昭が貞幹の示した「珍藏と秘玩」というモノの価値観を分析している⁽²⁰⁾。「珍藏」は古典籍・古文書・古銭・古瓦・金成文拓本・如意・古器物などで構成され、「秘玩」は、「日用器具中の愛玩品」であり吉澤によると「珍藏品は主として古代文化資料」「秘玩は日用器具中の愛玩品」であり、前者は「古器旧物保存方」に示されているような大方の古器物全般を示し、後者は実際に使用し有用性を失っていない道具と言える。寛政9年に貞幹が編んだ『集古図』の所載品を「古器旧物保存方」31種の分類に当てはめると以下のとおりである。『集古図』に古瓦の所載はないが著書に『古瓦譜』が知られ、自身の蒐集した古瓦の多くが提示されている。また貞幹の蒐集した古物、書籍の一分であろうが『訪古遊記』や佐々木春行が貞幹没後に譲り受けた遺品目録である『無佛齋遺傳所領目六』にも多くの書物や古物の記録があり、前者は（訪）、後者は（無）として記載しておく。蔵書に関しては『秘蔵書目』一冊があり吉澤によると貞幹自筆の122冊と、この他に296冊や京都大学図書館にも多数の書籍と若干の古物が記録されてい

ることがわかる。

1 祭器 神祭ニ用ル楯矛其他諸器物等

元明帝御陵瓦器/成務帝御陵瓦器/河内國石川郡古墳所出瓦器/全土偶/古石棺/和州天武帝御陵所出瓦犬/美濃宮代村古陵所出瓦馬/三輪山所出石器/文正竹案軸/不詳所出石器/筑紫國造磐井君/地圖并石人/山城國賀茂山所出高坏/全所出箸臺/備中國高島宮廢寺址所出土器/紀伊國吹上寺所出傳土器//城國貴布弥山所出缶/三河國土中所出土器/豊前國宇佐海濱所出土皿/備中國笠岡山所出土器/三輪山所出土壺/平尾村人家堀地所出壺/山城國愛宕郡岡崎土中所出瓦器/古瓦器一枚備中國高島宮廢址所出(訪)/又二枚同國笠岡山所出見集古圖(訪)/又一枚山城國愛宕郡岡崎村所出見好古日録(訪)/古石鑿二種(訪)/古石刀二種以上二品見集古圖(訪)

2 古玉宝石 曲玉 管玉 瑠璃 水晶等ノ類

上野國前橋西光寺山所出曲玉/陸奥國白河郡大村所出曲玉/日向國顧兒湯郡所出曲玉/遠江國所出曲玉/薩摩國鹿兒嶋土人所藏曲玉/奥州白川郡船田村所出曲玉/大和國三輪山所出管玉/釜口普賢院所藏玉器/河内國古布郡西琳寺什安閑帝御陵所出玉器/古金環一枚河内國石川郡山田村所出(訪)

3 石弩雷斧 石弩 雷斧 霹靂碓 石劍天狗ノ飯匙等

能登國鳳至郡所出石器/飛騨國高山所出石器/越後國黒姫山所出石器/河内國所出石器/不知所出石器/陸奥國仙臺所出石刀/飛騨國白川郷天生村所出石刀/讃岐國阿野郡千匹村所出石刀/車輪石/大和國所出車輪石/大和國所出石器/讃岐國阿野郡千匹村所出石器/伊勢國小俣祠所出石器/不知所出石器/東大寺南大門石獸

4 古鏡古鈴 古鏡 青鈴等

隱岐若玉酢社什駄鈴/同鈴/上総国貞元村神将寺出土所出古鈴/下総国金剛輪寺什古鈴/河内国金剛輪寺什古鈴/駄鈴/鹿嶋正等寺什駄鈴

5 銅器 鼎爵其他諸銅器類

瓶子/諾樂春日祠酒注/法隆寺所傳銅器/所出不詳金銅器/東大寺所傳紫銅花瓶/蟠螭紋古銅器一枚(訪)/菊花紋古鐵器一枚以上二品見好古日録(訪)

6 古瓦 名物並名物ナラズト雖古キ品

『古瓦譜』安永5(1776)年刊行所載瓦/滋賀宮花頭瓦主人有説見下(訪)/藤原宮瓦(訪)/平城京(訪)/紫香樂宮瓦(訪)/長岡宮瓦(訪)/大極殿碧料瓦(訪)/外記廳瓦(訪)/太宰府瓦(訪)/都府樓瓦(訪)/多賀城瓦(訪)/逢阪關瓦(訪)/不破關瓦(訪)/土佐國府瓦(訪)/賀茂社古瓦石化者為(訪)/足利學校瓦/此餘平安諸官舎廢址瓦數十片其目略之(訪)

7 武器 刀劍 弓矢 旌旗 甲冑 馬具 戈戟 大小銃砲 彈丸 戰鼓 孃羅

法隆寺什七曜劍/肥前國五嶋七郎官古刀/出羽國秋田厨川所出古刀/義家朝臣海老鞘卷刀/福島氏所藏小刀/松田丹後守貞秀所藏太刀/浪花市人所藏古鉾/伊勢國安濃縣主真桑校舍所藏古鉾/讃岐國高松海中所出鉾/大和國布留祠古鉾/山城國白河村天神官鐵鉾/安藝國兩延八幡社地所出鉾鋒/肥前國七郎宮神寶矛/東大寺所藏鉾/全手鉾/伊豫國三島社所傳鉾/渋谷金王丸鉾//出羽國仙北郡鎗見奈伊邨古木中所出鏃/讃州三本郡武礼村平氏菅遺趾所得鏃/日向國山中杣木中所出鏃/不二山南野所出鏃/楠正行鏃/吉見家藏古鏃/摂州須磨寺堂前所得鏃/古劍一口河内國

古市郡西琳寺傳來見集古図（訪）

8 古書画 名物 肖像 掛幅 卷軸 手鑑

『秘藏書目』他に多数

9 古書籍並古経文 温古ノ書籍図画及古版古写本其他戯作ノ類ト雖モ中古以前モノニテ考古ニ属スル者等

『秘藏書目』他に多数

10 扁額 神社仏閣之扁額並諸名家書画ノ額等

宮殿扁額模本 紫宸殿/仁壽殿/校書殿/清涼殿/後涼殿/春興殿/温明殿/常寧殿/貞觀殿/弘徽殿

諸門扁額模本 建禮門/宣秋門/義明門/永安門/宣陽門/大衛門/明義門/右掖門/長樂門

11 楽器 笛 笙 革葉 箏 大鼓 鐘鼓 羯鼓 箏 和琴 琵琶 琴瑟 仮面其他猿樂装束並諸樂

敦實親王笏拍子/岡田久常藏石神樂笛/後白河帝御笛/叡福寺什古笛/同藏大塔宮御隨身笛/鈴木三郎琵琶撥/玄象琵琶撥/巖島社藏和琴軋/同囊/上杉彈正大弼室箏/郭公琵琶/箏柱袋二種/採桑老舞曲所用古下鞆/東大寺八幡宮神寶下鞆并藥袋/同一種/伎樂假面破片天平中所造（訪）/胡德樂勸杯假面破片永曆中所藏（訪）/古螺填一枚平等院鳳凰堂所用（訪）

12 鐘銘碑銘墨本 名物並名物ニアラスト雖モ古キ品

上野國多胡碑/陸奥國多賀城碑/檜山御陵碑/下野國那須國造碑/河内國形浦山碑/小野毛人墓誌/船氏墓誌/楊貴氏墓誌/高屋枚人墓誌/紀廣純墓誌/威名大村墓誌/伊福吉部德足比賣墓誌/璽印二紙及馭鈴銘一帖（訪）/船王後首墓誌（訪）/藥師寺淨圖擦銘（訪）/那須國造碑（訪）/形浦山碑（訪）/多胡碑（訪）/又双鉤木極精好（訪）/減實山御陵碑并隼人形（訪）/楊貴氏墓誌（訪）/多賀城碑（訪）/高屋連牧人墓誌（訪）/紀廣純女吉繼墓誌（訪）/和漢歷代錢幣打本十七帖面（訪）

13 印章 古代ノ印章類

大神宮印/古銅印/近江国栗太郡田間所出銅印/古銅印/雪野寺土中所出銅印/源儒皮莫本銅印/讃岐国寒川郡田井村所出銅印/諏訪祠什古印/法隆寺印/鵜寺倉印/東寺印/東寺傳法印/黃楊木印/名印材伊豫國埋木俗称扶桑木者/字印材阿武隈川埋木

14 文具諸具 机案 硯 墨 筆架 硯屏ノ類蒔絵硯

東大寺所傳磁硯/西洞院街所出磁硯/永祚中所造瓦硯/東寺所出文安瓦硯/壬生寺藏紫石硯/藤子礼藏天授石硯/東寺藏僧空海研/知恩寺藏松陰研/北野廟藏松風研/水滴/南都二諦坊墨模/元徳中古墨/江州武佐墨/庭田氏所藏久安中古机/滋賀宮花頭瓦研（訪）/水滴天正年間所造（訪）/墨床長柄橋柱（訪）/筆管紫檀一枝天正中物、赤木一枝主人少年時自製五十餘年所用（訪）/筆架以豊原純秋家古松造野、別有記（訪）/朱研以古磁研破壊者造座芳之皇居搯（訪）/印匣以賀茂山古木根造之主人自製（訪）/書刀蠻刀二百年前舶来（訪）/糊斗古陶器（訪）/匣平城朝集堂楹合造古匣則畫所預家三百年來所藏之破匣也水滴以下至糊斗盛此匣皆在研傍（訪）/猿頭研西土所製別有記（訪）/水滴三百年許物（訪）/朱研太極殿礎石破片造之（訪）/右盛一匣此匣朱漆琉球國所製（訪）/古澄泥研一面見好古小録（訪）/墨破片一個後光明帝服御墨貞幹自筆にて知るせり表山吹畫裏文嵩ノ二字アリ（無）/丸墨一個表雙龍畫裏葉瓊枝梅易水法製ノ

八字アリ（無）／釣鐘墨残片一個貞幹使用セリしもの

17車輿 車輿 藍輿等

古輿／大徳寺傳來後醍醐帝所賜輿／東大寺八幡宮神輿三基／大神宮祠官宿館所蔵四方輿／同塵取／津守家蔵後醍醐帝所賜車

18屋内諸具 屋室諸具 屏障類 燈燭類 鎖鑰類 庖厨諸具 飲含器具 煙具等

新字供車伊賀國名張郡／東大寺大佛殿御燈田東大寺蔵脇息／全蔵黒塗酒器／法隆寺蔵上宮王片輪車御篋／竹如意天然物（訪）／蒲葵扇主人自弱冠所用（訪）／竹帙破片延暦中物（訪）

19布帛 古金襴並古代ノ布片等

錦綾染禾布帛／葡萄紗／春日社什東京錦／法隆寺什打鋪／古画屏風縁大和錦／仁和寺宮所用方慢松本形／法隆寺什交綾／東寺什帙簀襲平絹／法隆寺什褥／同什調布／御帳表敷／法隆寺什毯代／古錦綾破片数十種其日繁多故略之（訪）／古調布破片二種（訪）／古蚕綿（訪）／古木綿（訪）／古氈破片千年前物（訪）／古毯代破片以上六品千年前物（訪）／麻絲天平中物（訪）／浮線一枚千年前物（訪）

20衣服裝飾 官服 常服 山民ノ服 婦女服飾 櫛簪ノ類 傘笠 雨衣 印籠巾着 履屐之類

壬生官務家蔵老懸／平緒／御堂殿平緒／萬里小路藤房御平緒／東大寺什鳥皮靴／決拾及鞆／村上帝宸筆御扇／高倉帝扇／松田丹後守貞秀蘇木骨扇／蒲葵扇／法隆寺所傳牙笏／道明寺什菅家牙笏／壬生官務蔵御堂関白殿笏／猪熊殿笏／富家殿笏／法性寺殿笏／後徳大寺左大臣笏／閑院公季公笏／中山殿所蔵古笏／勸修寺家蔵光笏／中院家所蔵光笏／日野大納言忠光御笏／師資御笏／仙臺中將蔵山蔭中納言笏／細川大炊助所蔵笏／松室先徳扇箱／古翳破片千年前物（訪）

22貨幣 古金銀古錢並古楮幣等

古錢十二品其目略之（訪）

23諸金製造器 銅 黄銅 赤銅 青銅 紫金 鉄 錫等ヲ以テ製造セル諸器物

東大寺校倉勅封錠／壬生官務家蔵鎖／東寺寶庫錠／法隆寺所蔵風爐／全蔵古鋸

24陶磁器 各国陶器磁器等

伊勢國山田山所出五口壺／讃岐國阿野郡土中所出壺／近江國蒲生郡土中所出壺／全山中石窟所出磁器／三河國賀茂郡三船村石窟所出壺／所出不知壺／三井寺山中所出皿／伊勢國多度社境内地所出磁器／宇佐八幡宮境内地所出磁器／蘇壺／常陸國西宮村土中所出壺

25漆器 蒔画 青貝 堆朱等ノ諸器物

高臺寺中昌純院所蔵朱漆壘子／御厨子所預家所蔵米漆合子／堅田氏所蔵黒器／比幾礼合子／匙子

26度量權衡 秤 天平 尺 斗升 算盤等古代ノ用品

新修晋前尺／伯耆守狛近家所傳小尺／阿波守狛近光所傳尺／法隆寺什銅斗／宣字升／内侍所小升／同反錢升／尾州村岩崎所蔵升／法隆寺什牙尺／法隆寺什古大升／民部省厨升／太孝齋升／藥師寺金堂升／山科升／興福寺南円堂油升

このように18世紀中頃から後半を生きた藤貞幹の蒐集品からも幕末維新期の好古家のコレクターズアイテムと共通する品々が記録されていることが理解できる。ただし記録を見る限り貞幹は、遊戯具や人形、仏像・仏具といったモノは興味の埒外にあった傾向が見て取れる。貞幹とほぼ同時代を生きた木村兼葭堂もまた難波の好古家として名を馳せた。兼葭堂のコレクショ

ンは、『蒹葭堂雜錄』にも記されているように「本邦唐山金石碑本、本邦古人書畫、近代儒家文人詩人、唐山眞蹟書畫、本邦諸國地圖、唐山蠻方地圖、草本金石珠玉蟲魚介鳥獸、古錢、古器物、唐山器具、奇ヲ愛スルニ非ズ、專ヲ考索ノ用トス。蠻方異産。右ノ類アリトイヘドモ、ミナ考索ノ用トス。他ノ艷飾ノ比ニアラズ。」とあり、大きく分けて、書画、古地図、天産、古器物に分類できる⁽²¹⁾。

また、大坂堂島米市場で五仲買に挙げられる豪商であり、鴻池らと並び称される全国諸藩の大名貸として君臨した本家升屋平右衛門第四代山片重芳は、財政危機にあえぐ仙台藩の建て直しに多大な貢献をなし、さらには全国諸藩の大名貸として君臨した。家業に加えて重芳の蘭学への関心とその知識等の高さを示す史料として、寛政10（1796）年11月26日、大槻玄沢の芝蘭堂における新元会の際、余興に作られた「蘭学者相撲番付」（早稲田大学図書館蔵）記載の80名の内、大坂人は山片重芳（東方前頭十枚目）のほかに橋本宗吉（西方小結）、蒹葭堂木村多吉郎（西方前頭二十六枚目）があり、蘭学に関して特に優れた著書のない重芳が江戸の蘭学者や愛好家のなかで相当の知名度を持っていたことが窺える⁽²²⁾。蒹葭堂や大槻玄沢らとの交流の中で生涯にわたって多数の蒐集をおこなっていたことが升屋歴代の蔵書記録、蒐集品目録などが残されており、これによると重芳覚帳（一）の末尾に記載される「書物目録といわれる504部の蔵書目録と蒐集品を記録した重芳覚帳（四）および重芳覚帳（五）の二冊があり、（四）には外題に「諸道具」とあり、茶道具をはじめとした主に美術品類の目録となっている⁽²³⁾。目録は、懸物・香器・蓋置・茶器・茶匙・茶碗・鑲并鎖・建水・花器・水指・土鍋・菜籠・屏風・水次・香炉・杓立・茶匣・釜・研筥并硯・文匣・卓・風炉・炉縁・皿鉢・猪口・南京今利類茶碗・漆器家具類・灰并台類・研蓋并乱箱、広蓋類・銚子并間鍋德利類・燭台・煙盤・重匣・提重并弁当類・野風炉・刀懸并手拭掛・火鉢并火入付込・二番漆器類付込并面々盆・懸物二番・研匣二番・懸物二番（三番）と、41種類の諸道具、器物類を分類し、名称・由来・取次・金額等といった事項を簡潔に記載したものである。（五）には外題に「諸価 □（不明）」とあって、内題には「家蔵記」と記されるがごとく、千点以上にも及ぶ家蔵の蒐集品の入手記録および目録が明かとなっている。内容的には（四）「諸道具」と重複する物もあるが、さらに金着古代環・大古風鐸・漢時代廟器・土器・古瓦・化石・玉類・奇石など広範な品々を含む蒐集品について物品名・数量・解説・代価・取次者名・入手事情などが記載されている。

さらに、摂津国菟原郡住吉村呉田（現在の兵庫県神戸市の東部）の江戸時代の豪商・吉田家により編纂された『聆涛閣集古帖』⁽²⁴⁾は、古器物類聚の模写図譜で安永・天明頃から明治初年に至る約100年間にわたり、道可、拙翁、渚翁と号する3代にわたる当主は、学者・貴族と交わり、その人脈によって多くの古物や古文書を蒐集した。46帖5函のうち46帖には、天地・尺量・升量・扁額・文房・肖像・書・碑銘・墓誌・鐘銘・雜銘・甲冑軍營・弓矢・刀劍・鋒・馬具・樂器・印章・鏡・織紋・乗輿・玉・食器・食品・葬具・調度・囊匣・瓦・鈴鐸・戲器・仏具・雜の32項から構成され、総計約2,400件を収録するとともに、他に20点ほどの肖像画・絵図の未表装模写が付属する。これらに記録された品々の大半は同様に「古器旧物保存方」31種に通じる内容を含むものである。

結びにかえて

ここに具体例を示した明治期の古物蒐集と記録化の実際は、先人たちが遺した蓄積を継承しながら発展した側面が強いことを理解して頂けたらどうか。「古器旧物保存方」の冒頭に、

古器舊物ノ類ハ古今時勢ノ變遷制度風俗ノ沿革ヲ考證シ候爲メ其裨益不少候處自然厭舊競新候流弊ヨリ追々遺失毀壞ニ及ヒ候テハ實ニ可愛惜事ニ候條各地方ニ於テ歷世藏貯致シ居候古器舊物類別紙品目ノ通細大ヲ不論厚ク保全可致事

とあるように、「集古觀設立の献言」に呼応するかたちで、廃仏毀釈による時勢を憂い「自然厭舊競新候流弊ヨリ追々遺失毀壞ニ及ヒ候テハ實ニ可愛惜事ニ候」とのべ、その目的を「古今時勢ノ變遷制度」と「制度風俗ノ沿革ヲ考證」するために裨益することが少なくないとし、その考証に裨益するモノは、「各地方ニ於テ歷世藏貯致シ居候古器舊物類」とあるように、古器旧物31種には本稿でみてきた歴世に互って藏貯されてきたモノの世界観が反映されているのである。

註

- (1) 椎名仙卓 2005 『日本博物館成立史』 p.88
- (2) 鈴木廣之 2003 『好古家たちの19世紀』 p.38 吉川弘文館
- (3) 柴田道賢 1988 『廃仏毀釈』 pp.122-125
- (4) 大学献言 明治四年四月廿五日

集古館ヲ建設致候一大要件ハ既ニ外務省ヨリ及献言候旨ニ付更ニ贅言不仕候へ共、戊辰干戈ノ際以来、天下ノ宝器珍什ノ及遺失候モノ儘有之哉ニ伝承致シ、遺憾ノ至ニ有之候處殊ニ近來世上ニ於テ欧州ノ情実ヲ悉知不仕候輩ハ彼国日新開化ノ風ヲ以テ從ニ新奇發明ノ物耳貴重仕候様誤伝致、只管厭旧尚新ノ弊風ヲ生シ經歲累世ノ古器旧物敗壞致候モ不顧既ニ毀滅ニ及候向モ有之哉ニ相聞へ、考古ノ徵拠トモ可成候物逐日消失仕候様成行、實以可惜次第ニ有之候、抑西洋各国ニ於テ集古館ノ設有之候ハ古今時勢ノ沿革ハ勿論往昔ノ制度文物ヲ考證仕候要務ニ有之、大学ニ於テモ必要ノ要件ニ候間何卒右等ノ物品遺失不化候様致度、併當時内外御用途御多端ノ折柄ニ付、若集古館御建設ノ儀速ニ難彼為行儀モ有之候ハバ姑ク府藩県へ御布告相成、歷世相伝仕居候宝器ハ勿論自余ノ雜品ニ有之候共考古ノ徵証ニ可相備品物ハ精々保護相加候様沙汰有之且夫々専務ノ者被命右器物ヲ図画ニ模写致シ羅設編成ノ儀被仰付候様有之度、若シ當時ノ世態ニテ更ニ一歳有余ヲ打過候ハバ天下ノ古器宝物ハ大概壞滅仕、竟ニハ其形似モ不存候様相成行候患害無之トモ難申候間、何卒至急御処置有之候様仕度此段献言仕候以上 四年四月廿五日 大学

- (5) 「六 大学南校物産会資料」 1973 『東京国立博物館百年史』資料編 p.572 東京国立博物館

大学南校上申 博覽会ノ主意ハ宇内ノ産物ヲ一場ニ蒐集シテ其名称ヲ正シ其有用ヲ弁シ或ハ以テ博識ノ資トナシ或ハ以テ証徴ノ用ニ供シ人ヲシテ其知見ヲ拡充セシメ寡聞固陋ノ弊ヲ除カントスルニアリ然レトモ皇国從來此拳アラサルニヨリ其物品モ亦随テ豐贍ナラス故ニ今者此会ヲ創設シテ百聞ヲ一見ニ易ヘシメント欲スルトイヘトモ顧ミルニ隆盛

ノ拳ニ至ツテハ之ヲ異日ニ待サルヲ得サルモノアリ因テ姑ク現今官庫ノ蔵スル所及ヒ自余ノ物品若干ヲ駢列シテ暫ク人ノ来觀ヲ許シ以テ其開端トナス自今爾後毎歳一次其会期ヲ定メ日ヲ逐ヒ月ヲ累ネテ漸々宇内ノ珍品奇物ヲ網羅シ人ヲシテ遠ク万里ノ外ニ遊フヲ用ヒス座シテ全地球上ノ万物ヲ縦覧セメンコトヲ期ス

一、 当今官品未タ完足セス故ニ金石ノ属草木ノ類ヨリ鳥獸魚介虫豸等ニイタルマテ総テ天造ニ属セシ物又諸器器械奇品古物及ヒ漢洋舶齋ノ諸品等等総テ博識ノ資トナスヘキ人造ノ物ヲ所蔵シ展觀ニ供セント欲スル有志ノ輩ハ会前ニ之ヲ当館ニ携ヘ来ルヘシ且ツ最寄ノ物品ヲ出セシ輩ニハ褒賞ヲ賜フヘキ事其出品ハ博覽会物品類部類書ヲ見テ其大概ヲ知ルヘシ

一、 会期ハ来ル五月五日ヨリ同月晦日マテノ間ヲ限り展觀ハ毎日朝九字ヨリ午後五字マテノ間ヲ限トス

一、 来館ノ輩ハ男女貴賤ヲ論スルコトナシ

但シ一時ノ雜沓ヲ防ク為ニ南校ニ於テ予メ切手ヲ渡置クヘシ

一、 持參ノ品物ハ其持主ノ姓ヲ記シ之ヲ列スヘシ尤預リ証書渡シ置会後引替品物差戻スヘシ

一、 商賈売買ノ品物若シ贖ヒ度者アラハ売主ト談判勝手次第ナリトイヘトモ会中ハ其品物ヲ列シ置ヘシ

大学南校 博物館

明治四年辛未三月

- (6) 木下直之 1997 「大学南校物産会について」『学問のアルケオロジー』 p.89 東京大学出版会
- (7) 同註(2) p.121
- (8) 同註(2) p.130
- (9) 蜷川第一 1933『蜷川式胤追慕録』永光社
- (10) 京都美術倶楽部 1936『京都東寺蜷川家所蔵品入札』
- (11) 静嘉堂資料は、総数874点を数え、箱1「馬角\奇彩千秋\靈光萬古」蓋裏には勝海舟、小野湖山の揮毫がある。中には、武四郎唯一の肖像写真(明治15年撮影)に首に架けられている「大首飾」や明治9(1876)年に豊後島津家より購入した見事な琅玕翡翠の勾玉一連など、主に玉類が収納されている。箱2「土壘剥蝕\天地含章\朱翠鮮新」と記され、巖谷一六と清の学者楊守敬(1839~1915)による揮毫、捺印が施され、中には、中国や古代ローマの青銅器、コイン、古墳時代の六鈴鏡や和鏡が収められる。大きく箱書された「天地含章」は世界の兵器を意味する。箱3「東至宝\皇和宝銅\千古觀光」と記され楊守敬による揮毫中には、古墳時代の鈴杏葉や八角鈴などの鈴にまつわる青銅器を中心に、古墳時代の石製模造品の履、アメリカやフランスの新石器時代の石器などが収められる。箱4「寵仙」と記され小野湖山による揮毫と中には墳時代の石製腕飾類や縄文時代の石器類、柘などが収められる。箱5「大雄小窟」と記され、山岡鉄舟の揮毫と中には仏像や泥塔などの仏教美術関連資料や人形関係の資料が収められる。箱6

「静壽」と記され川田甕江の揮毫と中には硯や墨筆といった文房具類が収められている(内川隆志編著 2013 『静嘉堂文庫蔵 松浦武四郎蒐集古物目録』2010年科研費成果報告)。また、これらの他に方格規矩八禽銘帶鏡・雷紋龍耳敦・絢紋龍耳罍・獸耳壺・燵斗・兕觥蓋等の中国古代の青銅器や猿面硯、天正年墨等の文房具類、田村將軍像・柿ノ本人磨座像・僧照偏正座像・西行法師座像などの木造類なども収蔵されている。

松浦武四郎記念館蔵品は、「古器縦覧」が知られ、静嘉堂蔵品とほぼ同手の仕立ての木箱には、小野湖山の揮毫があり、中には和同開珎や永樂通宝等の泉貨、銅鏃、鏑等の武器類、奇石、讃岐裂小幅等が収められている。その他単独の箱に収まる妙樂菩薩や玉類、書画等274点が知られている。近年、金銀貨のまとまったコレクションが寄贈されている。国際基督教大学には、武四郎が人づてに日本全国91ヶ所に及ぶの神社仏閣、歴史的建造物などの古材を蒐め、明治19年(1886)に竣工した「一畳敷」が流転の末、同大学内に存在する(ヘンリー・前田育徳会は、武四郎旧蔵で国内唯一の古代中国の玉璧を所蔵する。箱裏には小野湖山の揮毫で「文政元年戊寅二月日向国那珂郡/今町村農佐吉所有地朝王之山堀/出石棺中所獲古玉古鐵器三十餘/品之一蓋日向上古之遺蹟多実/所謂王之山亦必非尋常古塚也」と記される(本郷泰道 2008 「玉璧と松浦武四郎を結ぶもの」『宮崎県立西都原考古博物館研究紀要』第4号)。

(12) 晩年の自筆稿本・旅行記

明治12年(1879) 『己卯記行』 三卷

明治13年(1880) 『庚辰紀行』 五卷

明治14年(1881) 『辛巳紀行』 三卷

明治15年(1882) 『壬午遊記』 一卷、『壬午小記』 一卷、『壬午日記』 一卷

明治16年(1883) 『癸未溟志』 三卷

明治17年(1884) 『甲申日記』 三卷

明治18年(1885) 『乙酉紀行』 二卷、『乙酉後記』 一卷

明治19年(1886) 『丙戌前記』 二卷

明治20年(1887) 『丁亥前記』 二卷、『丁亥後記』 一卷

(13) 内川隆志 2020 「好古家柏木貨一郎の事績」『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究Ⅲ』近代博物館形成史研究会

(14) 鎌形慎太郎 2020 「古銭蒐集をめぐる明治期好古家の諸相－根岸武香の蒐集とその交流－」『好古家ネットワークの形成と近代博物館創設に関する学際的研究Ⅲ』近代博物館形成史研究会

(15) 国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/849467>

(16) 『柏木探古遺愛品列品目録』 1901 東京帝室博物

(17) 岡崎寛徳 2006 『近世武家社会の儀礼と交際』校倉書房所収「第十三章 將軍吉宗の諸家什物上覧」

(18) 『万宝全書』には、元禄7年版12冊本・同9年増補再刷本・享保3年部分覆刻再刷本・宝暦5年部分削除再刷本・明和7年覆刻再版本の6種が数えられる(内村和至 1994『古

今和漢万宝全書』初版本について」『桐朋学園大学研究紀要』20)。

- (19) 吉澤義則 1931 「藤貞幹に就いて」『國語説鈴』立命館出版部
- (20) 内田好昭 2006 「珍藏と秘玩－古物および古物情報の収集と価値形成」『モノ・宝物・美術品・文化財の移動に関する研究－価値観の変容と社会－』平成14～17年度科学研究費補助金基盤研究（A）（課題番号14201009 研究代表者 中野照男）研究成果報告書
独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所
- (21) 『新燕石十種第五卷』第5巻1927 『攝陽見聞筆拍子』巻8所収の「唐の開帳の事」には兼葭堂所持の108種の品々が記載される。
- (22) 有坂隆道 1985「山片重芳の蘭癖収集品」『日本洋学史の研究』Ⅶ 創元社 p.122
- (23) 有坂隆道 1966「豪商升屋平右衛門山片重芳の蔵書・収集品について」（上）
『史泉』33号 関西大学
有坂隆道 1967「豪商升屋平右衛門山片重芳の蔵書・収集品について」（中）
『史泉』34号 関西大学
有坂隆道 1966「豪商升屋平右衛門山片重芳の蔵書・収集品について」（下）
『史泉』35・36合併号 関西大学
- (24) 仁藤敦史 2005 「『聆涛閣（れいとうかく）集古帖』」『歴博』第130号国立歴史民俗博物館

（國學院大學文学部教授）